

5) コミュニケーション英語 I の研究授業

ア 授業デザイン

教科	英語	科目	コミュニケーション英語 I	授業者	桑原 華栄
実施日時	2018年 11月 5日 5時限			対象クラス	1年 B組 (31人)

【第一段階 求められている結果】 ※ 理解の6側面(説明、解釈、応用、パースペクティブ、共感、自己認識)

単元名	El Sistema : The Miracle of Music
⑥ 単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆ある組織とそれに関する人物について書かれた文章を読み、それらの活動・人物について、そのようなもの・人であるのかを理解し、説明できる。 ◆述べられている人物の行動や状況をもたらした理由やきっかけを理解し、説明できる。 ◆関心のある組織や活動について説明し、自分の考えるその活動の意義を説明することができる。 ◆読解により得た知識(encourage, empower)を自己に引き付けて考えようとするすることができる。
⑨本質的な問い	<ul style="list-style-type: none"> ◎エル・システマジャパンには、どのような意義と課題、可能性があるのか? ◎あなたは今後、encouragementとempowermentにどのように関わっていくか?
⑩理解 重大観念 と誤解	<p>encourage: (1) to give someone the courage or confidence to do something (2) to persuade someone to do something</p> <p>empower: (1) to give someone more control over their own life or situation (2) to give a person or organization the legal right to do something</p>
⑪知識 ⑫技術	<p>⑪過去完了形/過去完了進行形, S V O C (=分詞), S V O C (=原形不定詞), 接頭辞 en/em</p> <p>⑫根拠の元にした理由づけを適切に行うことで、自己の考えを主張できる。 自分の知識を振り返り、不足している部分や曖昧な部分を適切な言葉を用いて質問できる。</p>

【第二段階 評価のための証拠】 ※ 該当する項目を枠で括る又は記入する。

評価のための証拠	パフォーマンス課題、テスト、小論文、 振り返りシート 、作品、 生徒の応答 、 生徒の質問 、 観察 その他 (ワークシート、発表)
ルブリック	有 (別紙) ・ 無

【第三段階 学習計画】 ※ W (目標) H (関心) E (経験) R (振り返り) E (評価) T (調整) O (組織化)

1 各授業のテーマ (主となる学習活動の内容や問い等)

Part1の内容	タイトルにある Music と Miracle はどのように結びつき得るのか?
Part2の内容	人生で与えられる "chance" にはどのような意味があるのか?
Part3の内容	encourage と empower の違いは何か?
Part4の内容	Music を通して得られることは何か?
本時の内容	Part1~Part4 で学んだことをふまえ、エル・システマジャパンに関わった人物や行動、それをもたらした要因や活動の意義を予想するとき、考えられることは何か?

2 予習 (有・無)

3 問いの構造 ※ Ideas の問いは QI、Connections の問いは QC、Extensions の問いは QE と記入する。

①つかみの発問 (導入の発問)	エル・システマはベネズエラ以外にはどこまで広がっているのか? 2012年3月23日の約1年前、日本で何があったのか?
②課題提示の発問	エル・システマジャパンとは何か?
③思考拡散の発問	エル・システマジャパンの関係者、設立の要因、意義を予想してみよう。
④思考焦点化発問	ベネズエラと日本の共通点・相違点は何か?
⑤思考深化の発問 (洞察促進発問)	エル・システマジャパンの成果と課題を予想してみよう。
⑥評価の発問及び 生徒の質問	あなたは今後 encouragement と empowerment とどのように関わっていくか?

イ 学習指導案

日時	平成30年11月5日(月) 5限	クラス	1年 B組(男13人、女18人)	1B教室
教科書	Unicorn English Communication 1	副教材	WORDBOX Essential	
単元名	El Sistema: The Miracle of Music			
単元親 生徒親 指導観	対象クラスは、英語が苦手な生徒が多くいるが、お互いに助け合える雰囲気がある。また、自分らしい考えを大切にできる。今回は、宿題のように時間を十分にとって準備できない状況下でも、間違いを恐れず、自分の考えを述べるという即興性を身につけさせたい。			
単元の指導計画				
時	主なテーマ・問い	主な学習活動		評価方法
1	音楽はあなたの人生に必要なか?エルシステマはなぜ Music Miracle と呼ばれたと思うか?	人生に音楽が必要な理由を分類する。 Music Miracle と呼ばれた理由を考える。		英作文 全体発表
2	レナーさんが言う『自分に与えられたもの』とは、狭義・広義でそれぞれ何を指すか?	狭義のものがどんな種類の支援かを明確にした上で a chance in life の理解を深める。		英作文 全体発表
3	encourage と empower の違いは何か?	en という接頭辞の働きについて学んだ上で、問いにある2つの定義を明確にする。		ワークシート発表
4	Music を通して学べることは何か?	音楽、特にオーケストラが社会の縮図であることから協調性を育み、社会を成熟させるものになり得ることを理解する。		ペア発表 全体発表
本時の目標	(1)これまで学んだことをもとに、エル・システマジャパンに関する人物や行動、について予想して英語で書き、発表する。 (2)これまでの知識では予想できないことを考え、英語で質問できる。 (3)ベネズエラと日本の共通点や相違点をふまえて、エル・システマジャパンの成果と課題を英語で発表する。			
評価規準	別紙ルーブリック参照			
学習の展開				
	学習活動	指導上の留意点		評価方法
復習 7分	①ベネズエラのエル・システマについて学んだことをプレゼンテーション形式で発表する。 ②Prospect「今後の展望」で出てきた意見について発表する。	◆グループ体系で着席させる。		活動の様子
導入 5分	③世界地図のスライドを見て、エル・システマが日本にもある事に気付く。 ④設立日1年前に、日本で何が起きたかを話し合い、発表する。 (グループワーク・全体発表)	Q1) -1 <u>エル・システマは、ベネズエラ以外にはどこまで広がっているのか?</u> ◆地図の焦点を徐々に日本にあてていく。 Q1) -2 <u>エル・システマの設立日は2012.3.23だが、この1年前には何があったのか?</u> (英語でキーワードをだせる?) ◆写真を何枚か見せて支援する。 ◆生徒からでてきたキーワードを板書する。		活動の様子 発表

<p>展 開 30分</p>	<p>⑤エル・システムジャパンが設立された経緯、目的、意義などについて、プレゼンテーション用ワークシートを使って予想しつつ、箇条書きにまとめる。 (グループワーク・7分)</p> <p>⑥予想できなかったことを質問する。 (全体・5分)</p> <p>⑦ベネズエラと日本の共通点・相違点を意識しながらプレゼンテーションを再考する。 (グループワーク・3分)</p> <p>⑧ベネズエラの成果と課題を意識しながらプレゼンテーションをまとめる。(グループワーク・3分)</p> <p>⑨発表練習 (グループ・7分)</p>	<p>Q2) <u>エル・システムジャパンとは何か?</u></p> <p>Q3) -1 <u>エル・システムジャパンの関係者、設立の要因、意義を予想して書いてみよう。</u></p> <p>◆手が止まっているグループには、ヒントを与えて支援する。</p> <p>Q3) -2 <u>予想できなかったことは何か?</u></p> <p>◆質問に答えながら、それがどういう種類の情報かについて意識的に補足する。</p> <p>Q4) <u>ベネズエラと日本の共通点・相違点は何か?</u></p> <p>◆共通点・相違点を示す表現を思い出させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>共通点 : They are both~/ in common 相違点 : On the other hand / while On the contrary / however など</p> </div> <p>Q5) <u>エル・システムジャパンの成果と課題を予想して、まとめてみよう。</u></p> <p>◆グループで発表の様子をみて、モデルとしてふさわしいグループを選び、プレゼン資料の写真を撮る。</p>	<p>活動の様子 ワークシート</p> <p>発表</p> <p>活動の様子</p> <p>活動の様子</p>
<p>ま と め 13分</p>	<p>⑩発表とまとめ (全体・10分)</p> <p>⑪次の課題提示 (3分) 自殺しようとしたおばあさんを救って感謝状をもらった19歳カップルの記事を読み encourage と empower について自分の考えを整理する。</p> <p>今後、自分は encouragement と empowerment とどのように関わっていくかについて書く。</p>	<p>◆代表グループは前にでて、発表するように指示する。 ◆代表グループが作成したスライドをプロジェクターで映して全体に示す。</p> <p>Q6) <u>あなたは今後、encouragement と empowerment とどのように関わっていくか?</u></p> <p>◆生徒が家で一人でも取り組めるように、やるべきことを明確に指示する。</p>	<p>発表</p> <p>ワークシート</p>

ウ ルーブリック

	評価の 観点	S	A	B	C	D
(1)	エル・システマジャパンに関する予想 (理由・意義)	This organization <u>empowers</u> children in the disaster area. It offers what they need or opportunities to learn instruments, So, the children regain their hopes and dreams. Also, it helps them to feel they are not alone.	This organization <u>empowers</u> children in the disaster area by offering what they need or opportunities to learn instruments. In this way, children regain their hopes and dreams.	This organization <u>empowers</u> children in the disaster area by offering what they need or opportunities to learn instruments.	It's a music education similar to the one in Venezuela. It <u>encourages</u> children in the disaster area and supports them to enjoy music.	It's a music education similar to the one in Venezuela. It <u>encourages</u> many children in the disaster area.
(2)	予想できないことの質問例	What are demerits of El Sistema JAPAN?	What's in common or the difference between the situation in Venezuela and that in Japan?	Thanks to this activity, what kind of advantage did the children in the disaster area obtain?	How did they help the children?	Who did they try to help?
(3)	エル・システマとの共通点	Empowerment Solidarity Cooperation	Empowerment Help each other Overcome difficulty	Music Education Empowerment Give power	Music Encouragement	orchestra Hope, Dream make children happy
	エル・システマとの相違点	Scale/Number National-Local Economic problem Natural Disaster	National System Local organization Poverty- Disaster	National System Local activity Poor- Earthquake	Dr.Abreu System Earthquake	Dr. Abreu Lennar, Felix, Edicson Earthquake

エ 振り返り

①「授業デザイン」・「ループリック」作成

◎他教科に学ぶことと自分の教科の特性を意識することの大切さ

コミュニケーション英語で扱う題材は多岐にわたり、1つの単元がたった4つのパートから構成されるために、教科書の本文だけでは十分に理解できないことも少なくない。これまでも他教科の先生に内容面での質問をすることはあったが、「授業デザイン」を作る目的で相談をしたことは初めてだった。今回は社会科という視点からベネズエラの無償音楽教育を見て”empower”というキーワードを助言して頂き、文法事項ではなく、本質的な問いの核となる「英単語」を核にデザインを進めていくと、英語科らしさを失わない授業デザインを作ることができた。

✳盛り込みすぎた学習指導案

「授業デザイン」や「ループリック」作成を進める中で、当日の授業で「見せるべき姿」が膨らみすぎてしまった。授業の最後にグループ発表をいれていたが、「問い」を中心に生徒の思考が深まるのを見て、今回の授業のゴールは、Q5)エル・システマジャパンの成果と課題、特に、課題の中でも「今後の展望」と言えるものについて生徒に深く考えさせることだと気づいた。

②授業実施（当日）

当日は予定を変更し、最後のプレゼンテーションの時間を、上記のQ5)について考えたことを発表させることにした。学習内容のまとめをするのとは違い、予想したことを発表するので生徒達に緊張感があったが、自分達の考えに根拠をもって堂々と発表することができた。



生徒の表情が変化した3つの問い

1. エル・システマジャパン設立の理由を予想する際に、“What happened in Japan about a year before March 23, 2012, when El Sistema Japan was founded?”
(→ ベネズエラと日本の共通点なんて見つからない…から一転。あ！東日本大震災だ！)
2. エル・システマジャパンのオーケストラが日本のどこに存在するかについての問い。
“Which city or prefecture has its orchestra in Japan?”
(→ 相馬、大槌、東京までは納得の表情だか、長野県駒ヶ根市にあることに驚きの表情。)
3. エル・システマジャパンが今後支援したいと考えているのはどんな子どもたちかを予想する際に、大震災の時の子ども達の気持ちについて生徒が出したキーワードを振り返り、“What children feels sad, lonely, or unlucky now? — You can write “Children who…””
(→ 親を亡くした、虐待されている、学校にいけない、障がいをもっているなどを思いつきプリント書く、グループで共有、英語でなんというか調べている様子。)

③実施後

モチベーションが重要な役割を果たす言語習得においては、生徒が話したいと思うような「問い」を立てることが要となることを再認識した。一方で、表現したいことが内容面で複雑になりすぎて生徒が躊躇していた場合、「これは社会（理科）の授業ではないから…」という言い方でハードルを下げることも効果的だと分かった。また、各クラスの個性を以前より意識するようになり、長所を生かし短所を補う授業展開を心掛けている。
(文責：桑原)